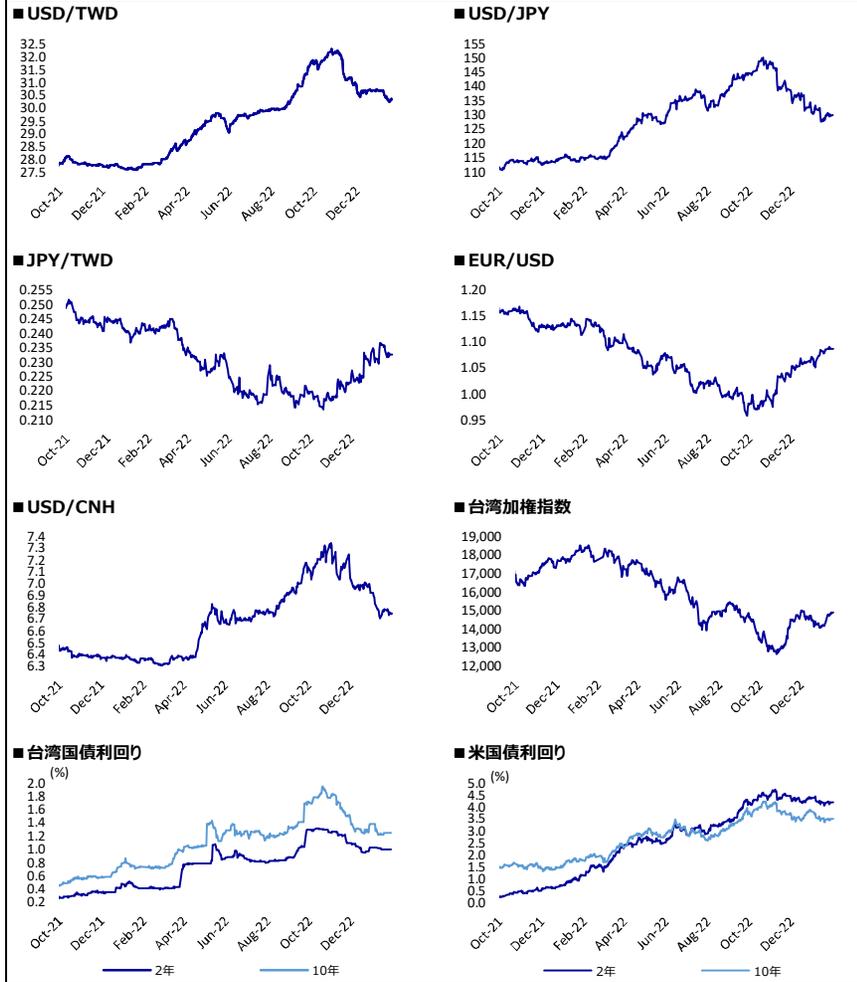


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初1/16は30.360でオープン後、台湾株が堅調に推移する中、台湾ドル買いが優勢に。輸出企業のドル売りもあり、一時30.248まで下落した。1/17は台湾株が堅調に推移したものの、輸入企業等のドル買い圧力が強く、ドル台湾ドルはじりじりと上昇し、30.34付近まで戻した。1/18は台湾株式市場が休場となる中、動意が乏しく、30.32付近の狭いレンジで推移。1/19も連休を前に実需の取引のみとなったが、輸入企業のドル買いから一時30.380まで上昇したものの、連休を控え徐々に取引が減少するとレンジでの推移となり、最終的に先週比0.1%ドル安台湾ドル高の30.368で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は299.8億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初1/23は129.51でオープン後、129円台前半まで下落したが、日銀の共通担保オペの応札結果が堅調であったことから円金利が低下すると円が売られ、130円台に乗せた。その後は米金利の上昇もあり、130円台後半まで上昇した。1/24は依然として日銀の金融政策変更への思惑が薫る中、円が買われ129円台後半まで下落したが、米1月製造業/サービス業PMIが予想を上回ったことやNY証券取引所でシステム障害が発生したことからリスク回避の動きもあり、一時131.12まで上昇。しかし、その後は米金利の低下を受けて129円台後半まで下落した。1/25は130円台前半で推移していたが、カナダ中銀が次回会合での利上げ停止を示唆したことや米5年債の好調な入札結果から米金利が低下したこともあり、129円台半ばまで下落。1/26は前日の流れを受けて、一時129.02まで下落。売り一巡後は129円台半ばまで戻したが、米第4四半期GDPが予想を上回り、そのほかの米経済指標も好調であったことから、ドルが買われ、130円台半ばまで上昇した。1/27は東京CPIが約41年ぶりの高い伸びとなったことから、日銀の金融政策変更への思惑から129円台半ばまで下落。その後は130円台に戻したが、発表された米経済指標が強弱混合となる中、週末や翌週にFOMC等重要イベントを控えており、129円台後半でもみ合う展開となった。最終的に先週比0.2%ドル高円安の129.80で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：29.950-30.400
今週は連休明けで月末でもあるため、台湾ドルが買われやすいと見込む。ただし、FOMC等重要イベントを控えており、外国人投資家の動向には注意したい。

■ USD/JPY 予想レンジ：125.00-132.00
今週は、FOMC、ECB、米雇用統計の発表等、重要なイベントが控えており、警戒したい。FOMCについては0.25%の利上げが予想されているが、パウエルFRB議長の会見でハト派な発言がないか、注意したい。米国の経済指標も弱い結果が増えており、米国の経済指標の結果によってはドルが売られる場面があるであろう。

今週の予定

1/30 (MON)	
1/31 (TUE)	台湾12月輸出受注、米1月消費者信頼感指数
2/1 (WED)	台湾12月鉱工業生産、米1月ISM製造業景気指数、米FOMC
2/2 (THU)	ECB政策理事会
2/3 (FRI)	米1月雇用統計、米1月ISM非製造業景気指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。